

● はじめに

7泊9日間の濃密なスケジュールで実施された、今回のポートランド調査。ポートランドに行く前は、「なぜ、日本で仕事をしている私たちがわざわざポートランドで研修を受けないといけないのか。」と心にモヤモヤ感を抱えていた。しかし、研修が終了した今、「もしポートランドに行かなかったら、今の自分はいなかったかもしれない。」と思えるほど、大きな気付きと変化をいくつも得られたと感じている。今回は、その中でも特に印象的だったキーワードを基に簡単ではあるが振り返りたい。

● 研修で気付いたこと、教わったこと等

全体を振り返り、次のキーワードが私に気付きと変化を与えてくれた。

- ① 情報発信及び共有、② パートナーづくり、③ 地元を愛する気持ち、④ 信じる心、⑤ ビジョンやイメージを「絵」で伝える、⑥ 思いを伝える力を磨く、⑦ 様々な人と話し合う

これらのキーワードの中で、特に次の3点について自分で考えてみた。この3点は、今後の私が進むべき方向性を照らしてもらったと思っている。

1. とにかく相手と話をする。勇気を持たずに話から逃げてしまったら何も始まらない。
2. 地元プライドを持つ。相手に地元のことについて正々堂々と表現できることは、どんな言葉よりも素晴らしい。そして、同時に市民を信じる。信じなければ一緒になることはあり得ない。
3. パッション（情熱）溢れる仲間（最終形は「同志」になる）を増やしていく。仲間は職員と市民の両方が必要。何かを始める時、そこには必ず大きな壁や困難が待ち受けている。その時にたった1人では Goal まで辿り着くことはない。最初の仲間は1人でもいい。共有できる仲間を作ることが大切。ただし、「自分にとってやりやすい仲間」を作っても壁や困難は乗り越えられない。

● おわりに

ポートランド研修で教わった知識や市民参加の手法は、日本とほぼ同じであったと思う。しかし、やり方が大きく違っていた。ポートランドのように「相手のパートナーになって、一緒に取り組んでいく」という考え方は、今の日本に最も足りない部分ではないだろうか。そのためには、行政がもっと住民と同じ目線で考え、共有し、実践していくことが必要であると感じた。そして、それは決して不可能ではないと思っている。

私は今回の研修で確実に自分の「スイッチ」が押された。そして、かけがえのない仲間（同志）を見つけることが出来たと思っている。毎日午前様まで地ビールを飲みながら、相手に自分の「思い」をぶつけ、相手の思いを受け取った夜。そして、時には笑い、時には男泣きし、ハグし合った日々。その全てが今後の自分の人生に大きく関与していくと確信することが出来た。

無駄なことが一つもなかったこの研修に参加させていただいたことに感謝し、これからは地元でみんなが持っている「スイッチ」を押してあげることが私の使命になると思っている。その一步を踏み出す決意が出来たことと、生涯の仲間（同志）たちに出会えたことが、何よりの収穫であったと思う。最後に、私たち研修生のためにご尽力して下さった西芝先生、たくさんの教えを授けて下さったダンさんとチップスさん、私生活含めてお世話になった PSU スタッフ及び通訳の皆さん、市内探索で真剣に語って下さったポートランド市民の皆さん、沢山の気付きを与えて下さったゲストスピーカーの皆さん、そして機会を与えて下さった財団スタッフの皆さんに心より御礼申し上げたい。「ありがとうございました！」

【研修の様子（一部）】

